

5.3.2. vi エディタの操作

vi エディタの起動は、編集したいファイルを引数として起動するだけです。この時に存在しないファイルを指定すれば、自動的に新規ファイルとして扱います。

vi にはモードという概念があります。早速 vi を起動して機能を見ていきましょう。

```
$ vi test.txt
```

・コマンドモード

エディタを開いた時にはこのモードになっています。文字や行の消去、コピー、ペースト、文章の保存などは全てコマンドモードで行います。

・入力モード（インサートモード）

文字の入力は、入力モードで行います。入力中の行を消す程度のことはできますが、基本的に文書の編集、保存はコマンドモードで行います。

コマンドモード時に使用できるキー操作には非常に多くの種類がありますが、ここでは特に使用頻度が高いと思われるものを紹介します。

- **ESC** コマンドモードに移行
- **i** 現在のカーソル位置の前に文字を挿入 (→入力モードに移行)
- **a** 現在のカーソル位置の後ろに文字を挿入 (→入力モードに移行)
- **x** 現在のカーソル位置の文字を削除
- **dd** 現在のカーソル位置の行を削除
- **/文字列** 文章中から文字列を検索
- **n** 文字列検索時に、次の検索候補を表示する
- **:w** 保存
- **:q** 終了
- **:q!** 保存せず終了
- **:wq** 保存して終了
- **:w** ファイル名 指定したファイル名で保存
- **数字 dd** 現在のカーソル位置の行から数字行分削除
- **:/文字列** 上から文字列を検索 (n で次の候補へ移動)
- **:?文字列** 下から文字列を検索 (n で次の候補へ移動)
- **:数字** 数字の行へ跳ぶ
- **:e!** 前回保存した状態に戻る
- **:w!** 所有者であれば書き込み権限がなくても書き込める
- **%s/置換元文字列/置換先文字列/g** ファイル内の指定した文字列を全て置換する
- **:set number** 行数を表示する
- **:set nonumber** 行数表示を解除する
- **gg** ページ先頭に戻る
- **G** ページ最終行へ飛ぶ

- **Ctrl+f, Ctrl+b** ページ単位で進む (f)、ページ単位で戻る (b)

入力モードに移行した場合は、キーボードから入力した文字はそのまま文字として文章中に挿入されます。上で紹介したコマンドを使用するには **ESC** キーを押してコマンドモードに移行する必要があります。